

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4290201328		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム権常寺 グループA		
所在地	長崎県佐世保市権常寺町1087-3		
自己評価作成日	平成30年10月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①施設に入所されても、以前の(在宅時の暮らし)関係性が継続できるように支援しています。実際に、入所前から参加されている、地域のクラブへ、入所後も継続して参加されています。また、趣味活動への取り組みや、自分が誇れる取り組みに積極的に「昔取った杵柄」が発揮できる場を提供できるようにしています。②地域密着型サービスであるので、地域との関係が図れるように、地域ケア会議への参加や地域の方が来訪してからのクラブ開催など定期的実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に込めた思い「当たり前前の生活が、当たり前前のように過ごせるように」の実現に向け、職員一丸となって支援している。担当職員を中心に、利用者が必要としている介助や意思を情報収集している。その時の利用者の言葉で、どのように暮らしたいか記し、介護計画に反映している。職員は、利用者が意思を伝えやすく、且つ自己決定しやすいよう支援に努めている。今期よりライフチャートをパソコン管理し、データ化することで、ヒヤリハットや要望など統計化が容易となり、支援や運営に活かしている。運営推進会議に消防署員、設計士を招き、自然災害時のアドバイスを受け、マニュアルの見直しに取り入れるなど、サービス向上に積極的に取り組んでいる。認知症コーディネーターや地域サロン、学校での講話など、認知症啓発にも力を入れている。利用者の家としての空間づくりを心掛け、笑顔の中にも落ち着きのあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自己意思や自己決定を大事にし、「笑顔」「共感」「団結」で支援している。	職員は理念を利用者支援の目標として共有するため、室内の目につく場所に掲示している。リビングには明るい笑い声が響き、利用者には、それぞれの居場所があり、自分らしく過ごしている。日々、職員は理念にある「自己意思、自己決定」を大切に、見守りの支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議時に、地域の方との意見交換や情報交換、緊急時の応援体制など行っている。また、毎月1回折り紙会を開催し、地域の方と交流を行っている。	年間を通して、折り紙教室を開催し、地域の人と交流している。日常的には、散歩時の挨拶や地域商店の利用を行っている。また、職員が中学校の職業講和や地域サロンでのレクリエーション活動等を支援している。利用者の地域行事参加は、これからである。	開設から1年が過ぎ、運営推進会議での地域代表との情報交換も盛んに行っており、今後、地域行事に事業所自体が参加し、利用者と地域住民が、今以上につながることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域サロンへの参加やキャラバンメイトとして、地域への認知症サポーター養成講座を開催している。また、中学校への職業講話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや、地域との情報交換など行っている。	年6回、規定メンバーに加え、議題に合わせて知見者を招き開催し、事業内容を報告している。特に意見交換が活発に行われ、そこで抽出した課題を次の会議に繋げて、マニュアルの変更等サービス向上に活かしている。会議に不参加の家族にはホーム便りで、内容を伝える取組みもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成委員に市町村職員も含まれているので、会議の中で意見交換を行い、毎回報告書も市に提出している。また、メールにて研修案内や注意事項など連携している。	担当課とメールのやり取りが主であるが、介護保険申請時、相談や事故報告等、窓口に出向き関係制を築くことに努めている。運営推進会議に市職員の参加があるため、事業所の取組みを伝え意見交換を積極的に行っている。その他、市主催の勉強会や研修に職員は交代で参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での勉強会への参加や、外部研修などを通して、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。また、法人で委員会があり、常時活動を行っている。	身体拘束防止委員会が中心となり、拘束についての内部研修を行い、法人全体で身体拘束廃止に取り組んでいる。身体、言葉等による拘束について職員間で討議し、利用者の状況に応じて、散歩や寝入るまで側に居る等、日々の職員配置を調整し個別の対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会への参加や、外部研修などを通して、虐待防止に向けて取り組んでいる。また、法人で委員会があり、常時活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者が1名いるが、勉強会などの開催はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面談や、契約時、面会の時などケアの方針、質疑など行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全ての入居者に担当職員をつけ、利用者だけでなく、ご家族ともなじみの関係を作り、意見や要望が言いやすい環境作りを行っている。	利用開始時に、苦情受付の説明を行っている。家族が職員に気軽に意見や要望を話せるよう、信頼関係形成に努めている。年1回家族会を開催し、ホーム運営や看取りについて話し、家族からの意見を聞く機会を設けている。職員が家族からの提案は、申し送りノートで共有している。また運営側にも報告し、対応内容は家族へ報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の意見交換を毎日行い、必要時には緊急会議や毎月1回の定例会議にて意見交換を行っている。	月の会議、日々の申し送りや勤務時に、管理者は職員の意見を聞く機会を持っている。職員個別の相談は、随時対応している。職員の意見から、業務内容の見直しや勤務時間帯の調整を行ったことで、利用者と個別支援の時間が増えサービスの質確保に繋がっている。支援に必要な備品購入は、職員の気づきを取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員の職場環境に目を向け、働きやすい職場作りに向けて取り組んでいる。今年度より夏季休暇の導入など職員への福利厚生も充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	興味のある研修には、自主的に参加することができ、職員の資格取得の為の支援や、研修など、業務として参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老施協、グループホーム連絡協議会、介護支援専門員連絡協議会など、同業者との交流も多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談や、入所してからの本人の状態に合わせて、希望や要望などの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、事業所の説明や家族の希望や要望を聞くようにしている。また、面会時や電話にて連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前や入所後も、十分なアセスメントを行い、必要な支援の確保に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事作り、買い物など一緒に 行い、食事の際は、同じテーブルで会話をしながら食事をするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や要望を家族に伝え、本人と家族との懸け橋になれるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通われていたサロンへの参加や、自宅へのお仏壇参りなど行っている。	利用開始時に利用者の生活歴を、本人や家族などから情報収集し、調査書にまとめている。在宅時から通っていた地域サロンへ職員と出掛けたり、馴染みの場所へのドライブ等、個別に支援している。職員は、家族や友人などの馴染みの交友関係を把握し、外出や外食などつながりが継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮しながら、テーブルの席や外出時のメンバー、日常生活活動を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所になられても、今後の生活の場が確保できるように多職種、家族と連携を図りながら支援や面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の意向や思いを把握し、定例会議において職員で検討している。困難な場合は、家族から情報を得ている。	職員は、居室や入浴時、ドライブの時など、利用者の本音を聞く場面を設け、利用者に寄り添いながら思いを把握しており、趣味や特技を活かす取組みに繋がっている。会話は、聴力のある側に声掛けしたり、声の大きさに配慮する他、会話が困難時は、筆談を利用している。担当職員を中心に情報を収集し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わりのある多機関などから情報を収集し、入所後も日常生活を通して情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通して有する能力や心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえたうえで、会議を開催し、計画書を作成している。	初回計画は本人・家族の意向を取り入れ、計画に反映している。基本的には短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直しを行い、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、変化がある場合は、その都度見直している。カンファレンスは看護師を含めた利用者の関係者で実施し、その基になるケース記録は充実しており、利用者への柔軟な個別ケアに繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアプランの実施表、申し送りノートなど活用しながら情報の共有、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、関係機関と連携し、状態に合わせて対応できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	折り紙会やお茶会の開催など、日々の暮らしに楽しみが増えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科など定期的な往診を実施し、眼科や外科治療など主治医や家族と連携を図りながら支援している。	2週間に1回、内科、歯科の往診があることを入居時に説明しており、本人・家族の希望に沿って、これまでのかかりつけ医から主治医を移行している。内科以外のかかりつけ医は継続し、家族の協力のもと受診支援を実施している。2ユニットどちらかのシフトに看護師を配置する体制で医療面の充実に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット内に看護資格を持った職員を配置し、必要に応じて、相談や気づきなどを報告し、受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護サマリーを作成し、情報交換を行うとともに、必要に応じて、主治医や看護師に上申し、指示を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にターミナルや重度化に関する説明を十分に行っている。また、利用者の状態の変化に合わせて、家族との面談などを実施している。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を家族へ十分に説明を行い、同意を得ている。現段階、看取り事例はないが、終末期のあり方や事業所でできることについて職員の意識を共有している。また、重度化に対応できる施設の紹介等、利用者や家族にとって最善な方法を一緒に検討し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内勉強会や外部研修等に参加し、技術の習得に励んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な避難訓練や、毎月1回防災の日を設け、防災予防等の活動を実施している。また、運営推進会議にて地域との協力体制も築いている。	避難訓練を年3回、内1回は消防署立会いの下、訓練を行い改善点等の指導を受けている。特に6月に警察署から講師を招き非常災害について研修を行っており、職員の意識向上に繋がっている。備蓄食料、水は確保しているが、利用者情報や緊急持ち出し品の検討については、これからである。	地域的に土砂災害指定地域であり、自然災害についての避難訓練実施が望まれる。また、利用者一人ひとりの緊急連絡先や身体的情報等の個人情報が必要不可欠であり、その内容や職員の誰もが緊急時すぐに持ち出しできる手順や方法、物品の検討を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時は同性介助を実施し、広報誌などの個人情報も事前に家族等の意見や同意を得ている。	人前であからさまな支援は行わず、トイレ介助の誘導や声掛けは、さりげなく誘導している。羞恥心に配慮し、入浴は同性介助を実践している。個人の書類は事務所で管理している他、職員は守秘義務の誓約書を提出している。個人メモはシュレッダー処理し、パソコン、USBの取り扱いも徹底している。写真掲載の同意書も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	食事、掃除、入浴、買い物など、生活全般において常に自己決定ができるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムや趣味などを把握し、家事や外出、リハビリなど可能な限り要望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室に洗面台を完備し、お化粧品や髭剃りなど自分でできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや禁止食品を把握し提供している。また、調理、配膳、下膳、片付けなど、できる範囲で手伝ってもらっている。	食材宅配を活用し、調理職員が調理し配膳している。献立は旬の食材や利用者の嗜好調査の結果をもとに立てている。調理の下準備や下膳、片付けでは、利用者が力を発揮し生きがいを感じている。食事中は音楽を流し、職員と会話しながら楽しい雰囲気である。誕生日や季節行事に合わせた献立は、食への関心を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた食事形態（お粥、刻み、トロミなど）や、食器類など配慮している。また、毎食の摂取量の記録を行い、使用物品など必要に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの実施。歯科医院による定期的な往診にて、治療や点検が受けられるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを活用し、個人の排泄パターンの把握に努め、各個人に合った誘導や、物品の使用、検討を行っている。	居室トイレで座位排泄を支援している。利用者の生活リズムに合わせ、自身でトイレに行く場合、職員は様子を見守り、さりげなく介助している。ライフチャートを活用し、時系列で排泄パターンを把握し、個別の排泄支援に取り組んでいる。パターンを把握することで、パッド類の軽減や布パンツ使用など、快適に過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	芋類など食物繊維の多い食材を提供したり、腹部マッサージなど体操時に取り入れて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望を聞き、実施している。また、入浴時はリラックスできるように心掛けしている。	毎日入浴の準備があり、基本的に日中入浴介助している。希望や状況によっては、夕方に入浴支援している。職員が1人介助で支援しているが、場合によっては2人体制もある。入浴拒否は強制せず、同性職員が介助している。入浴順番やシャンプー類は、利用者の好みに対応し、利用者がくつろげるよう入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の希望やその時の状態に応じて、様子を見ながら支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提供時は、名前と日付を読み上げ確認し、内服薬の変更時は、申し送りノートを活用し、全職員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野で役割分担を行い、日々の生活の中で役に立っていると感じられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物などは個別支援として頻回に行っている。季節行事は計画を立て実施している。	体調や希望に応じて、ホーム周辺の散歩している。道沿いの花を摘んだり、個人のペースで散歩を楽しんでいる。歩行器や車椅子利用者も同様に外出している。週に数回、個別や小グループでドライブを実施したり、外出先で気分転換におやつを食べている。全員で遠出し、外出先で家族と合流するなど、外出を楽しむ工夫がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が食べたい物や欲しい物がある時は、預かり金にて自由に使えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の希望に応じて、電話を取り次いでいる。入居者自らの電話は、家族の承諾を得ている場合は、かけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や、安らげる音楽、適切な温度や湿度に配慮しながら快適に過ごせるようにしている。また、四季の花などを飾り、季節感が出るようにしている。	対面キッチンのあるリビングからは調理の様子が見え、調理をする音や匂いを感じることができる。季節の飾り物や折り紙教室の作品を飾り、利用者にとって家庭的で、くつろげる空間となっており、飾りすぎず落ち着いた空間である。職員が定期的に掃を行い、清潔な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置やソファを活用し、思い思いに落ち着いて過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて、本人持ち込みであり、慣れ親しんだ家具が使用できるようにしている。また、居室内に自分で作成した工作品など飾るようにしている。	備え付けのベッド以外、利用者がホームでの暮らしに馴染むよう、調度品は自由に持ち込むことができる。室内の配置や壁面を飾る等、利用者の個性が感じられる居室である。夜間のみ利用するポータブルトイレは、日中は別の場所に収納し、部屋の換気や温度調節も適切で、快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に応じた言葉かけや、福祉用具の活用を行っている。(車椅子、歩行器、移動手すりなど)また、リスクなどを常に考慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201328		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム権常寺 グループB		
所在地	長崎県佐世保市権常寺町1087-3		
自己評価作成日	平成30年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域密着型サービスであるので、地域との関係が図れるように、地域ケア会議への参加や地域の方が来訪してからのクラブ開催など定期的の実施しています。②個人の暮らしを尊重し、共同生活の場と自分の時間とのメリハリをつけ、より自宅で過ごしているような暮らしに近づけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価			
			実践状況			
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自己意思や自己決定を大事にし、「笑顔」「共感」「団結」で支援している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回、折り紙会を開催し、地域の方と交流を行っている。また、お茶会も開催し、地域との関りが図れるようにしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習の受け入れや地域サロン支援活動、認知症サポーター養成講座など開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや、地域との情報交換など行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成委員に市町村職員も含まれているので、会議の中で意見交換を行い、毎回報告書も市に提出している。また、メールにて研修案内や注意事項など連携している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に身体拘束についての理解を深め、個人に合わせたケアが実施できるようにしている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会への参加や、外部研修などを通して、虐待防止に向けて取り組んでいる。また、法人で委員会があり、常時活動を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者もおらず、勉強会も開催できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面談や、契約時、面会の時などケアの方針、質疑など行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全ての入居者に担当職員をつけ、利用者だけでなく、ご家族ともなじみの関係を作り、意見や要望が言いやすい環境作りを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の意見交換を毎日行い、必要時には緊急会議を開催し、反映できるようにしている。また、毎月1回定例会を開催している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員の職場環境に目を向け、働きやすい職場作りに向けて取り組んでいる。今年度より夏季休暇が作られ、福利厚生も充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の為に支援や、研修など、業務の一つとして取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老施協、グループホーム連絡協議会、ケアマネジャー連絡協議会など、同業者との交流も多い。		

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望を第一に考慮しながら立案し、よりよいケアが提供できるように実践を行っている。また、その都度、評価、要望の確認など行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等にて意向の確認を行うとともに、日頃の様子を伝え、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前に必要な支援について、本人や家族に説明を行い、同意をいただき、サービスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、家事などを共同で行ったり、時間や気持ちを共有し、関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、本人の絆を大切にし、定期的に面会に来ていただき、ケアの方針や現状などの課題に向けて協議している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との関係が途切れないように、訪問しやすい施設として、面会時の挨拶や環境整備などに取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は把握し、孤立やトラブルがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所になられても、今後の生活の場が確保できるように多職種、家族と連携を図りながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の好きな事や趣味活動、要望など把握し実践できるようにしている。また、困難な場合は、職員、家族などで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わりのある多機関などから情報を収集し、現在の様子と照らし合わせながら、サービスの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	趣味や生活習慣を把握し、個々に合わせた生活が営めるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを開催し、計画書の見直し、作成、実践を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や送りノートなど活用しながら情報の共有、ケアの工夫など行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、個々に支援を連携しながら行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別支援や折り紙会、お茶会を開催しながら、生活に楽しみが増えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診の他に、必要に応じて専門医への受診など家族と連携を図りながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット内に看護師資格を持った職員がいるので、必要に応じて相談や指示、受診の必要性など連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーを作成し、情報交換を行うとともに、必要な時は主治医や看護師に上申し、支持を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にターミナルや重度化に関する説明を十分に行っている。また、利用者の状態の変化に合わせて、その都度面談や説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外の勉強会へ参加し、技術の習得に励んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な訓練の実施、見直しを行っている。 また、地域との協力体制も築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価			
			実践状況			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアプランを基に、個人に応じた対応を心掛けています。また、個人情報など事前に同意を得ている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の洗濯やたたみ、掃除や入浴など生活全般に対して、常に自己決定できるような働きかけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを把握し、可能な限り、希望や要望に沿えるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室に洗面台を完備し、身だしなみやお化粧など自分でできるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや禁止食品を把握し提供している。また、調理、配膳、下膳、片付けなど、できる範囲で手伝ってもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた食事形態（お粥、刻み、トロミなど）や、食器類など配慮している。また、毎食の摂取量の記録を行い、必要に応じた支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや、治療が必要な方には関係機関と連携し、治療が受けられるようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを作成し、個人の排泄パターンの把握に努めている。また、個人の能力に応じたケア用品の使用に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ライフチャートにて可能な限り排便の把握に努め、必要に応じて、内服薬の調整を行っている。また、個人に合わせて、居室に水分の配布を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な巡回を行い、状態に応じたケアや環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬提供時は2名確認を基本とし、誤配に注意している。内服薬変更時は、申し送りノートにて情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に応じた活動や外出など生活の中で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援や季節行事など、ご家族と連携を図りながら支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		
			実践状況		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自由に使えるように、預かり金を管理し、必要に応じて買い物など支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の意向を踏まえながら、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や、安らげる音楽、適切な温度や湿度に配慮しながら快適に過ごせるようにしている。また、四季の花などを飾り、季節感が出るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置やソファを活用し、思い思いに落ち着いて過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて、本人持ち込みであり、慣れ親しんだ家具が使用できるようにしている。また、居室内のレイアウトも本人、家族で工夫して行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に応じた言葉かけや、福祉用具の活用を行っている。また、環境整備など考慮している。		